2025年
2月
南風
ふれあい南伊豆ホスピタル
第258号
● 当院では、患者様が地域で安心して暮らしていける為の支援をすすめています ●
編集・発行　医療法人社団 辰五会 ふれあい南伊豆ホスピタル　〒415-0151 賀茂郡南伊豆町青市 848 TEL 0558-62-1461 FAX 0558-62-0510

数字で表される社会問題から「2025」と「80・50」

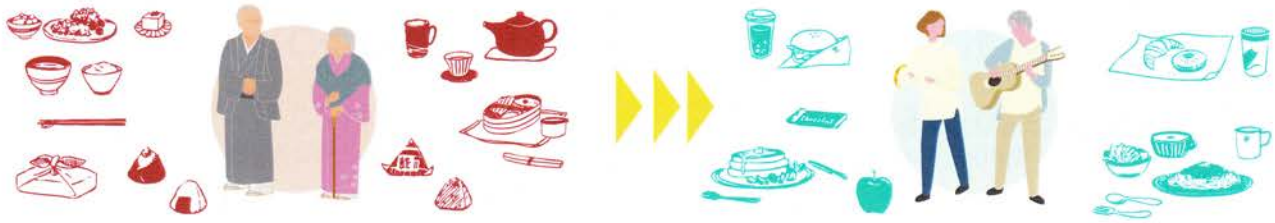
私たちを取り巻く現代の社会は、既に高齢化の真っただ中と言えるでしょう。そこに存在するいろいろな問題をとらえやすくするために、数字を使って表現したものが目や耳に入ってきます。
当院も高齢の患者さまやそのご家族が利用される割合が年々高まっています。そこで今回は、数字で表された高齢化社会に関連する2つの現象・社会問題に注目してみたいと思います。

❶ 2025年問題

何年か前から耳にするようになってきました。各種メディアが注目しているのは、

- 2025年になると、日本の人口の5人に1人が75歳以上（後期高齢者）となる
- そのため、医療、介護、福祉のニーズが高まり、それらにかかる社会保障費の額が大きくなる
- 更に、医療、介護、福祉の現場では人出不足が高まる　…といった点です。

しかし、問題はこうした「頭数」のことだけに留まりません。
一口に「高齢者」と言っても、それぞれ独自の人生を歩まれてきた方々ですので、価値観や嗜好は人それぞれ異なります。そのうえ、5年・10年刻みで年代を区切ってみても、考え方や好みの違いは大きいです。
したがって、高齢の方々のケアに携わる人たちが、時間の経過とともに「高齢者」のイメージを更新（アップデート）していく必要があります。
下のイラストはあくまでも一例ですが、［高齢者の嗜好］＝［左のグループ］とは限らないということになります。



❷ 80・50問題

これは80代の親が50代の子どもを支えるために、経済的・精神的負担が大きくなることを指すと言われていますが、実際にはその逆のパターン（子が親の介護の負担で経済的・精神的に追い込まれる）も少なからず見受けられます。両者に共通するのは、**福祉のサービスに関する情報が不足している、あるいは情報を得ていても活用できていないことから、他者とのかかわりがますます希薄になってしまう** という悪循環です。
「ひとりで悩まず相談しましょう」という言葉をよく耳にしますが、「どこへ?」が分からない場合、どこでもいいのでSOSの声をあげてみましょう。多少の回り道はあるかもしれませんが、まず声をあげることで、それを拾える人も現れます。

ふれあいオンライン医学講座のご案内

当院では、オンラインによる医学講座を随時開催しております。直近で行われた講座について、ご案内いたします。下記のQRコードからご視聴いただけますので、ご利用ください。

40代から始めよう!!
認知症予防

講師 ふれあい南伊豆ホスピタル 稲本　今日子（認知症疾患医療センター 保健師）

脳の老化は40代から始まると言われています。そのため認知症予防も早期に始めることが大切です。今回は生活習慣を改善して、日常生活に取り入れて欲しいポイントについてご紹介します。

動画はこちらから!!

※ 過去の配信動画は、ふれあいグループの公式チャンネルからご視聴いただけます。
精神科以外の様々なトピックがありますので是非ご覧ください。

YouTube ふれあいグループチャンネル

外来診察のご案内

月	火	水	木	金
内山	望月	休診	楠部	望月

ご予約・お問合わせ
0558-62-1461

診察時間 9:00～15:30 ※予約終了まで
（月曜日は10:00～）

当日受付 7:30～11:30
水・土・日曜、祝日は休診です

今年もこの２色の組合せが楽しみです

ふれあい南伊豆ホスピタル
静岡県賀茂郡南伊豆町青市848

2025年 2月発行 Vol.258

【監　　修】山本 善治
【構成・編集】神谷 正光
【デザイン】F&Y
【作業協力】支援センターふれあい
利用者の皆さん
ふれあい南伊豆ホスピタル
広報委員会